

挑 戦

第8号

発行日 平成 10 年 7 月 13 日

発行者 吉村研究室新聞委員会



第 8 号発刊にあたっての挨拶

研究室主任 吉村 昇

今年も研究室新聞（挑戦）の発刊の時期となりました。研究室の修了生並びに卒業生の皆様お元気ですか。厳しい社会・経済状況の中で、毎日元気に頑張っているものと思っております。

お陰様で、本年 3 月 31 日で研究室設置満 15 年になりました。昭和 58 年 4 月、西田先生（現情報工学科教授）、高橋技官、学生 6 人の計 9 人で研究室を立ち上げたのが、ついこの間のようになってなりません。その後、鈴木助手（現助教授）、佐藤（忠）技官、水戸部助手（現講師）、王講師をスタッフに迎え入れ、現在では総勢 30 数名の大世帯となりました。教育と研究は、量より質が大事であり、必ずしも数の多いことが良いこととは思っておりませんが、縁があつて同じ研究室で一緒に暮らす学生の多いことには素直に喜びたいと思います。

御承知の方もいると思いますが、本年 4 月 1 日より鉱山学部は工学資源学部（Faculty of Engineering and Resource Science）に変わり、6 学科から 7 学科と 1 学科増えました。電気電

子工学科の名称は変わりませんが、3 大講座から 4 大講座になり、吉村研究室も電気システム工学講座から電気エネルギー工学講座に変わりました。88 年間の鉱山の歴史にピリオドを打ち、21 世紀を目指した学部としてスタートした次第です。又私も、平成 10 年 4 月 1 日より 2 年間、初代の工学資源学部長を務めることとなりました。残された 2 年間で新学部の立ち上げに全力を尽くす所存であります。

今年の就職戦線は昨年と様変わりです。大変厳しい状況です。今までの所（6 月 28 日現在）、13 人中 6 人より内定しておりません。無事全員決まるか不安でいっぱいです。大学院への進学者は 2 人と少なく、がっかりですが、少数精鋭で行くつもりです。最後に、新聞の発刊に当たり、新聞委員会（委員長：大学院前期 2 年工藤健君）のメンバーには大変ご苦勞をかけました。感謝申し上げます。

吉村先生のご活躍

鉾山学部 「工学資源学部」へ学部名改称 工学資源学部「初代学部長」に就任

鉾山学部は、これまで我が国唯一の鉾山・資源系学部として国内、そして国際的にも高い評価を受けてきましたが、鉾山関連企業への就職の激減、鉾山という学部名称のマイナスイメージなどといった問題が生じていました。そこで、平成10年4月から“工学資源学部”と学部名が改称され、その初代学部長に我が研究室の吉村先生が就任されました。

鉾山学部長に就任したのは平成7年4月。鉾山学部長としては歴代最年少の51歳だった。現在54歳。「国公立の工学部系の学部長ではおそらく最年少でしょう。」と笑う。

「その若輩者が再度学部長に推されたのは、前向きに学部改革を進めようという学部教官の意志の表われ」と受け止めており「任期中の2年間で新学部の基盤をしっかりと固め、その信頼にこたえたい」と決意を語った。

国内鉾山の閉山が相次ぎ「鉾山」という学部名称に対して高校生が暗いイメージを抱いている。そのマイナスイメージを一掃することが「工学資源学部」と改称する理由の1つだった。しかし国内での資源系分野での人材育成をリードしてきた鉾山学部について「国内では資源系専攻の学生の就職の場が狭まったのは確かだが、活躍の場は世界中に広がっている」と可能性を示し「新学部では世界中に羽ばたく鉾山技術者育成にも努めたい。それが87年の歴史の中で多

くの優れた人材を輩出してきた鉾山学部の伝統を受け継いでいく道でもある」と意欲をのぞかせた。

また工学系の分野では、リサイクル、環境にやさしい技術の確立、高齢化社会へ向けた福祉工学とでも言うべき技術分野の開拓、といった時代の要請にこたえることができる人材養成に重点を置いた指導体制の確立を目指している。

研究者の道を選んだ大学卒業当時のことを振り返りながら「大学で学ぶ中で、学生が飯より好きな分野を見つけてくれれば」と漏らした。鉾山学部長として先頭に立って、新学部設置構想を練り上げてきた。4月からその構想を実践するにあたって「現状維持は敗北に等しい。常に前向きに」との言葉を胸に刻んでいる。

「実は気が小さいんです」とはにかみながら話し「周囲の協力があつたからこそ、ここまでやってこれた」と、学部改組の作業に取り組んできた教職員をねぎらった。（秋田魁新聞より）

西安交通大学（中国）の顧問教授に就任

秋田大学工学資源学部の吉村昇学部長（54）が、中国西安市の西安交通大学の顧問教授に就任した。日本人では2人目。西安交通大は理工系では清華大に次ぐ中国2番目の重点大学で、学生は16,000人。江沢民国家主席の母校としても知られる。7年前から、秋田大の吉村研究室に研究生を送り込んでおり、現在も博士課程に4人在籍している。こうした交流が縁で、吉村学部長は平成8年に特別教授に任命されていた。今回はさらに、日本素材物性学会長としての実績などが評価され、顧問教授に任命された。顧問教授は大学の管理運営に発言できる外国人教授。吉村学部長は3月23日に、西安市を訪

れ、王建华・西安交通大副学長から証書を授与された。（秋田魁新聞より）



研究室の出来事

王先生，水戸部先生講師に！

平成6年11月より客員研究員として，中国，西安交通大学からいらしていた王新生氏が，平成9年8月1日付けで講師に就任されました。また，平成8年4月1日より本研究室の助手として活躍されていた水戸部一孝先生が，平成10年3月1日付けで講師に昇格されました。おめでとうございます。

王先生は，吉村研究室にいらしてから3年半になります。現在は屋外用の絶縁材料に関する研究を行っており，学会，国際会議等でご活躍されております。

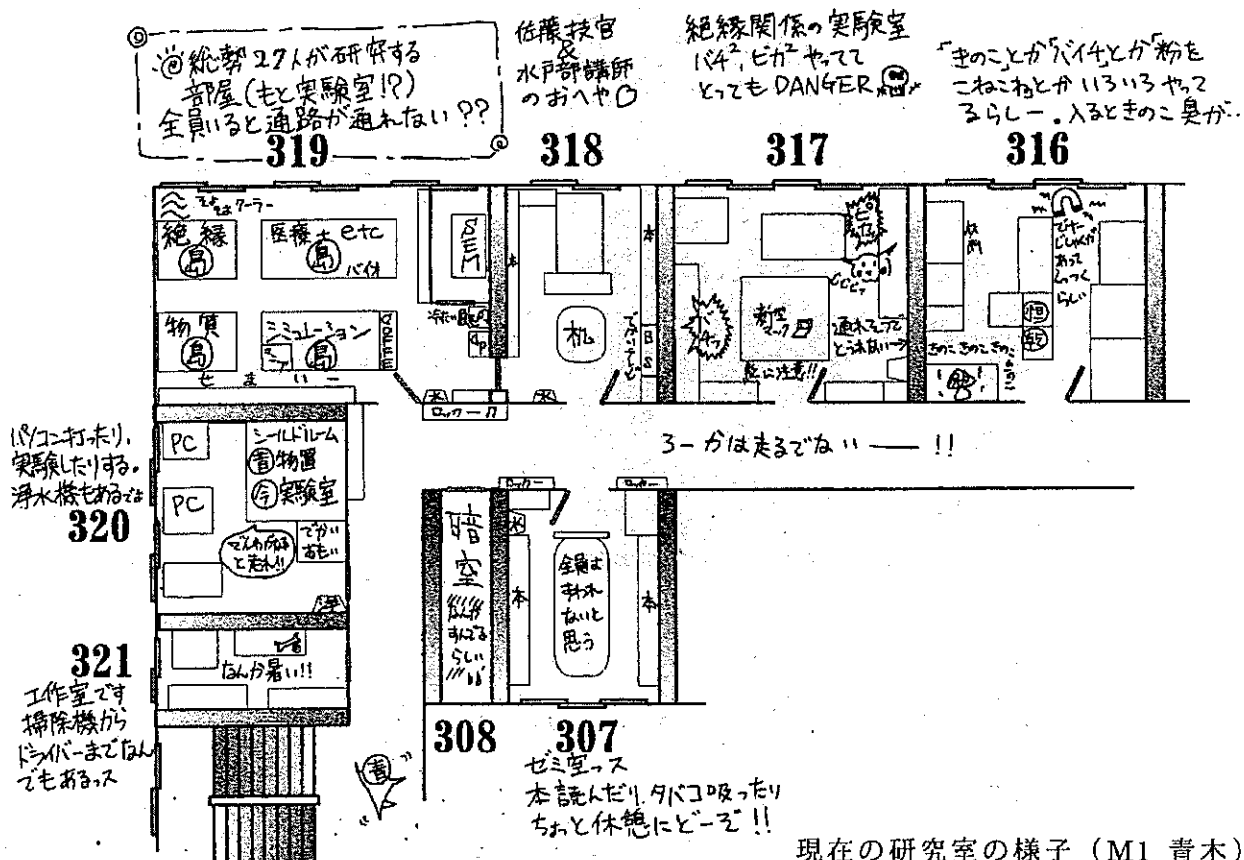
水戸部先生は秋田大学に助手としていらしてから，約2年で講師というスピード出世で，僕たち学生もびっくりしました。しかし鈴木先生といっしょで，本人は何一つ変わった様子は無く部屋のプレートが水戸部助手から水戸部講師に変わるまで，知らなかった学生もいたと思います。ただ，講師になったとたん，先生のイスが“社長イス”に変わっているのにはびっくりしました。先生曰く，ロッカーも大きくなるらしいです。

研究室大移動

今年2月下旬，突然，研究室の部屋の大移動があることが告げられ，大騒動に陥りました。実質，部屋が一つ減ってしまう，ということでした。現在，学生は27人。昨年までの状態でも，実験する場所が無く四苦八苦していたというのに，部屋が1つ減ると.....。（噂によると，某先生がジャンケンで負けてしまったため，1つ部屋が減ったという話も。）

現在は，昨年まで電気電子工学科の第一実験室だった319roomに学生全員が入り，減った分の部屋にあった実験機材がその他の部屋になんとか収まっています。

ただ，この先夏になり，暑くなると.....。この部屋はサウナ状態？



現在の研究室の様子 (M1 青木)

鈴木先生 結婚！！



H10.4.25 市内某ホテルにおいて、鈴木雅史先生が、新婦絵美（旧姓平出）さんとご結婚なされました。そこで、我が吉村研究室新聞班は、新婚ほやほやの鈴木先生に一言をと、突撃インタビューを試みましたが、多忙のため本人が相次いでインタビューを拒否!!（その時の鈴木先生は本当に恥ずかしそうでした by新聞班裏チーフ）。

そこで、式に出席なされた同研究室の〇戸部先生に、式の雰囲気について聞いてみました。

◎結婚式の雰囲気はどうでしたか？

実に華かで、楽しい披露宴でしたよ。音楽の選曲から、思いでの写真等、実にセンスが良く、私が思うに、段取り等は奥さんがコーディネートしたのではないのでしょうか。

料理は和風で年輩の方にも食べやすく、いたって好評でした。鈴木先生のお人柄がでており私は感心しておりました。

宴の中盤には新郎が客席？に乱入し、一気のみをされていたりと、一瞬「今日は研究室の飲み会か？」と錯覚してしまうような一幕もございました。

また、披露宴の間中ずっと絶えることのない、新婦の幸せいっぱいの笑顔が印象的でした。

なお、この模様は吉村研ホームページにてWorldwideに公開中です.....がしかし、新郎チェックにより、「奥ゆかしい写真のみ」となっておりますことを御了承下さい。



水〇部先生ありがとうございました。お二人の愛が、いよいよ結実の運びと伺い、皆様の祝福をあびてお興入れ、才色兼備の御良配を得られ新家庭を営まれる由⁽¹⁾が、感じられるコメントでした。

(M1 中川)

参考文献

(1)阿刀田稔子：“挨拶・通知・案内・招待状の書き方”、池田書店(1991)



末永くお幸せに



吉村研究室一同

特集 ～吉村研究室発足 15 年のあゆみ～

昭和 58 年（1984 年）4 月，吉村先生が講座主任に就任して，本年 3 月で満 15 年となりました。その間，数多くの先輩たちが“吉村研究室”を卒業され，現在，様々な方面でご活躍されております。そこで，吉村研究室発足 15 周年の節目の年と致しまして，その歴史を振り返ってみました。

年度	吉村研15年史	卒業生		
		修士・博士卒 ※下線は博士卒。	学部卒 ※下線は修士へ進学。	
S58 1983	4月 能登文敏先生の後を継いで吉村先生，基礎電気工学講座主任に就任。 吉村昇教授，西田眞助手，高橋重雄技官の3人で吉村研究室スタート。 吉村先生，学生委員会副委員長就任。	高橋 康弘	岩崎 太 太田 義則 佐藤 泰浩 三浦 信平	山石 克己
S59 1984	4月 吉村先生，電気工学科主任に就任。 5月 吉村・西田先生，電気学会論文賞受賞。	船木 重浩	相沢 幸広 伊藤 淳 菊池 仁 斉藤 千明	二宮 博 林 於城 若吉 功士郎
S60 1985	4月 吉村先生，電気工学科主任に就任。		岩代 二郎 貝田 徹 柿崎 康 加藤 寿喜	今野 直樹 下津 昌紀 本城 和久 渡辺 薫
S61 1986	4月 吉村先生，学生委員会委員長に就任。 8月 第1回センサ工学研究会開催。 (田沢湖ハイッ) 10月 吉村先生，静電気学会論文賞受賞。	伊藤 淳	小坂 弥 佐々木秀広 佐藤 茂樹 戸坂 久直	林 満章 古屋 隆 松田 賢 若狭 幸喜
S62 1987	10月 西田先生，講師に昇格。	今野 直樹 下津 昌紀	伊藤 登 大森 龍幸 神谷 政己 佐藤 英武	鈴木 浩正 昌子 智由 野口 豊彦 林 信 田中 雅美 久本 基 飯沢 敦 松本 丞二
S63 1988	4月 吉村先生，電気工学科主任に就任。 10月 吉村・西田先生，静電気学会論文賞受賞。 静電気学会全国大会開催。(文化会館) 11月 西田先生，文部省在外研究員としてアメリカクレークソン大学へ。(～H1.10月)	佐藤 茂樹 松田 賢	糸井 正志 小川 真美 熊谷 充行 小石 一之	鈴木 久雄 田中 暢 土居 騰 広嶋 康雄 目黒 寿孝 柳生 浩 吉澤 尚幸
H1 1989	4月 吉村先生，電気工学科主任に就任。 7月 吉村先生，客員教授としてアメリカクレークソン大学へ。	昌子 智由 田中 雅美 松本 丞二	新井 和彦 石成 敦 伊藤 達弥 太田 隆升	大友 誠司 佐々木芳宏 川崎 邦彦 佐野 政二 杉山 俊治 高橋 達也 安宅 英男
H2 1990	4月 鈴木雅史先生，助手として加入。 吉村先生，日本素材物性学会会長に就任。 博士課程設立準備委員会委員長に就任。	糸井 正志 鈴木 久雄	ワッサー 大野 光一 貝森 雄司 西園 貴輝	橋本 妙子 橋本 正人 林 建輔 水戸部 一孝 (北大，大学院へ) 村山 雄三 山崎 雄二 渡辺 茂 渡辺 幸生
H3 1991	8月 研究室新聞“挑戦”創刊号発刊。 11月 第1回素材物性学会国際会議(ICMR '91 AKITA)開催。 3月 高橋重雄技官退官。	新井 和彦 伊藤 達弥 川崎 邦彦 佐々木芳宏	池田 志郎 大谷 忠正 鎌田 和秀 川井 安生	栗田 和幸 真田 欣将 藺田 俊哉 七尾 勝 箱崎 博俊 平出 絵美 船木 憲治 吉田 有子

年度	吉村研15年史	卒業生				
		修士・博士卒 ※下線は博士卒		学部卒 ※下線は修士へ進学		
H4 1992	4月 吉村先生，電気工学科主任に就任。 西田先生，情報工学科へ。 佐藤忠雄技官加入。	大野 光一	林 建輔	安田 将之	黒崎 秀彦	花井 英二
	10月 吉村先生，静電気学会功績賞受賞。 3月 鈴木先生，講師に昇格。 吉村研究室発足，満10年。	徐 建飛 <small>(博士課程へ)</small>	村山 雄三	伊藤 登美子	敷村 朝生	三浦 秀一
H5 1993	4月 吉村先生，電気工学科主任に就任。	西岡 貴輝	渡辺 茂	小塚 睦子	菅原 剛	若林 栄一
	6月 吉村研究室発足 10周年記念祝賀会開催。 (秋田温泉さとみ)	橋本 正人		加藤 正明	田中 館 聡	若狭谷 亮将
H6 1994	4月 秋田大学鉱山学研究所博士課程設置。 (本研究室にも3人の学生加入)	大谷 忠正	平出 絵美	相田 一英	富樫 浩孝	吉田 稔
	10月 第2回素材物性学会国際会議 (ICMR '94 AKITA)開催。 吉村先生，「国際素材物性学賞」受賞。	田 政	吉田 有子	伊藤 俊也	西谷 幸男	真崎 卓也
H7 1995	4月 吉村先生，鉱山学部長に就任。	七尾 勝		石田 雄一	畠山 学	松本 徳吉
	7月 吉村先生，西安交通大学 特別教授に就任。 第10回センサ工学研究会開催。(桜島荘)	箱崎 博俊		小田 昭紀	畠山 泰	宮城 栄 二郎
H8 1996	4月 水戸部一孝先生，助手として加入。	袁 昌民 <small>(博士課程へ)</small>	若林 栄一	加賀谷 文明	速水 康成	山口 浩司
	6月 研究室4年生，自損事故。 (1名死亡，2人重傷)	加藤 正明		金田 陽子	白石 稔	山口 秀憲
H9 1997	3月 研究室から初の “博士(工学)”2人誕生。 鈴木先生，文部省在外研究員として カナダへ。(～H9.11月)	敷村 朝生		木田 正彦	杉本 智子	瀧ヶ崎 光
	4月 吉村先生，鉱山学部長に就任。 第2期目に突入。	花井 英二		熊谷 誠治	薄田 一	
H10 1998	4月 吉村先生，西安交通大学顧問教授に就任。	相田 一英	山口 浩司	秋山 勉	加藤 猛	高橋 和彦
	8月 王先生，講師として加入。	加賀谷 文明		阿曾 健	角濱 政義	永井 記幸
H10 1998	3月 水戸部先生，講師に昇格。	合田 巧真		磯西 邦夫	草野 輝章	西浦 成幸
	吉村先生，西安交通大学顧問教授に就任。	古田 稔		岡部 昌幸	工藤 広幸	
H10 1998	4月 水戸部一孝先生，助手として加入。	範 宗徳	マシタト・ゾウセツ ジョン・ガリア	片野 信吾	小林 謙一	
	6月 研究室4年生，自損事故。 (1名死亡，2人重傷)	徐 建飛	山口 秀憲	伊藤 豊	佐藤 啓	古田 好範
H10 1998	3月 研究室から初の “博士(工学)”2人誕生。 鈴木先生，文部省在外研究員として カナダへ。(～H9.11月)	木田 正彦	熊谷 誠治 <small>(博士課程へ)</small>	内海 光子	佐藤 保	松本 文佳
	4月 吉村先生，鉱山学部長に就任。 第2期目に突入。	杉本 智子		工藤 健	鈴木 元康	
H10 1998	4月 吉村先生，鉱山学部長に就任。 第2期目に突入。	薄田 一		木内 了	珍田 寛	
	8月 王先生，講師として加入。	袁 昌民		佐藤 安貴子	橋戸 宏明	
H10 1998	3月 水戸部先生，講師に昇格。	秋山 勉		青木 健太郎	小林 保晴	服部 慎司
	吉村先生，西安交通大学顧問教授に就任。	小林 謙一		菅野 高士	高瀬 文也	安井 貴次
H10 1998	4月 吉村先生，初代工学資源学部長に就任。	永井 記幸		小嶋 幹人	筒井 健治	渡部 光久
	8月 電気学会産業応用部門 全国大会開催。(秋田)			児玉 朋彦	寺田 裕樹	
H10 1998	10月 第3回素材物性学会国際会議 (ICMR '98 AKITA)開催。			小玉屋 律子	中川 史子	
	11月 吉村研究室発足 15周年記念祝賀会開催予定。					
		在校生				
H10 1998	4月 鉱山学部，工学資源学部に改称。 吉村先生，初代工学資源学部長に就任。	D3 周 遠翔	M2 工藤 健	寺田 裕樹	上条 晴彦	竹山 直樹
	8月 電気学会産業応用部門 全国大会開催。(秋田)	陳 麗	佐藤 保	中川 史子	北村 英規	立花 剛
H10 1998	10月 第3回素材物性学会国際会議 (ICMR '98 AKITA)開催。	D2 張 守斌	M1 青木 健太郎	4年 新谷 剛史	後藤 真吾	中嶋 慎論
	11月 吉村研究室発足 15周年記念祝賀会開催予定。	蔽 萍	小嶋 幹人	磯田 純一	杉山 督朗	武藤 竜也
		熊谷 誠治	児玉 朋彦	小野 俊幸	篠内 光悦	毛利 大輔
				高野 中	成田 康利	

研究室スタッフ

吉村 昇教授	水戸部 一孝講師
鈴木 雅史助教授	佐藤 忠雄技官
王 新生講師	船木 亜紀子秘書

卒業生・在校生合計 ※吉村研を卒業した人数

学部卒	118人
修士卒	45人
博士卒	3人
卒業生合計	166人
在校生	27人

(注) この人数は、吉村研究室を最終的に卒業した人数の合計です。(学部から吉村研の修士に進学した人は、修士卒として集計され、学部卒の人数には含まれておりません。) また、研究生も十数名研究室に在籍しておりましたが、ここでは掲載しておりません。ご了承ください。

吉村先生、西田先生、高橋技官、学生6人の9人でスタートした研究室も、開講して15年、その間166人の先輩が卒業されました。そして現在は、吉村先生をはじめ、6人の研究室スタッフと、学生27人の総勢33人の大所帯の研究室になりました。今回、まとめました年史、卒業生名と共に、学生時代の吉村研究室での日々を思い出していただければ幸いです。(M2 工藤)

年間行事 ～去年はこんな一年でした～

'97 8月

待ちに待った夏休みへと突入。しかし4年生は中間発表を控えており、休んでも休んだ気がしない。食事も喉をとおらない日々が続く。

9月

就職内定および大学院進学が全員決定。研究室が更に明るくなる。ほっとするのも束の間、研究が本格化しだす。

10月

第58回応用物理学会全国大会が秋田大学で開催される。

11月

吉村杯争奪ボウリング大会が開催される。我が吉村研究室は、団体の部・レーンごとの部・個人の部3部門全て制覇。

鈴木先生が更に男を磨いてカナダから帰国。

12月

鈴木先生歓迎会+カラオケ大会が開催される。鈴木先生を酔いつぶそうとお酒を注ぎにいくが、焼け石に水。

月末、4年生の中間発表は無事に終了し、忘年会へ突入。後に卒論・修論発表が近づいている事を一瞬だけ忘れ、酔っ払いが冬の夜に舞う。今年の汚れは今年のうちに!

'98 1月

正月休みに浸った?後、修論・卒論は山場を向かえる。研究室に泊りこむ人間も出沒する。寝てもうなされる日々が続く。

2月

修論・卒論発表終了。発表時の失敗などの話題で打ち上げが盛り上がる。みんな頑張りました。

3月

春は別れの季節。そう、卒業・修了式の季節。涙なしでは語れない式であった。挫折した時はいつでも戻って来るがよい。

研究室の大引越しも行われる。

4月

吉村先生が初代工学資源学部長に就任。また、春は出会いの季節。そう、新4年生配属の季節。今年もキャラクターの濃い人達が集まってしまった.....

5月

ゴールデンウィークも過ぎ去り、就職活動が始まる。全員内定の日が待ち遠しい。

6月

就職活動も活発になってくる。昨年より厳しい状況らしいが、少しずつ内定が決まり始める。

(M1 児玉)



鈴木先生歓迎会+カラオケ大会の様子

//写真は吉村先生//

学生の挨拶

学生代表 熊谷 誠治

研究室の諸先輩方、関係者の皆さん、今年もまた猛暑の季節となって参りましたが、この暑さにも負けず、全国各地で元気に御活躍なさっているとことでしょう。私も学生代表の仕事を引きちんとこなしているかといいますと大疑問なところではありますが、とにかく体だけは幸い丈夫でありまして、叱咤されながらなんとかやっております。

研究室は、学生の方は相変わらずぱっとしませんが、吉村先生が初代工学資源学部長にご就任、鈴木先生がご結婚、王先生、水戸部先生が講師にご就任と、非常に喜ばしいことが続いております。このようにすばらしい先生方の指導を受けておりますので、もっと優れた研究成果を出さなければならないというプレッシャーをヒシヒシと学生は感じております。このプレッシャーを良い方向に活かして、研究室がもっと発展するように学生代表として一生懸命頑張っていきたい所存です。

話は変わりますが、本年度の3月には、かつて研究室が経験したことの無いほどの大がかりの引っ越しが行われました。折しも、卒業、修了した学生が研究室を去ってからでありまして、さすがの少数精鋭？でも、実験が行えるほどに復興したのは新4年生を迎える4月上旬でした。日頃、目にする事ができない諸先輩方の負の遺産？である、処理不能の薬品、壊れた道具、私物などが、宝物のようにわんさか出現して参

りまして、引っ越しをスリリングなものにして頂きました。研究室の方においでくだされば、すっかり変わった雰囲気になれるでしょう。

研究室の引っ越しはある意味で、研究室の新たな出発を意味するのではないかと、私は考えております。この時期に学生代表という大事な仕事をするのは、私では不十分であるかもしれませんが、それでも、熱心にご指導して頂いている吉村先生、鈴木先生、王先生、水戸部先生、佐藤技官には常日頃から感謝しております。また、私をサポートしてくれている研究室の後輩たちにも非常に感謝しています。先輩方が培われた研究室の伝統を壊さぬよう努力していく所存であります。今後とも、ご指導ご鞭撻の程宜しくお願い申し上げます。

お知らせ

本年3月31日で、吉村研究室はおかげさまで15周年を迎えることができました。

そこで、本年11月頃に“吉村研究室発足15周年記念祝賀会”を予定しております。

詳細につきましては、後日、ご連絡致します。

<問い合わせ先>

Tel 018-889-2330 (鈴木 雅史)

E-mail suzuki@ipc.akita-u.ac.jp

編集後記

いよいよ、本格的な夏が近づいてきましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか。

挑戦“第8号”はいかがでしたか？

今年は、吉村研発足満15年、鈴木先生結婚などおめでたい出来事がたくさんあり、我々学生も喜んでおります。ただ、鈴木先生がどうしても結婚についてのコメントをくださらなかったことが残念です。本当は、1面にこの記事を持ってきたかったのですが.....

また、特集としまして、吉村研15年史を作成しましたが、なかなか大変な作業でした。しかし、吉村先生の快いご協力により完成することができました。ありがとうございました。

最後になりましたが、研究室新聞“挑戦”へのご意見、ご感想を心よりお待ちしております。それでは、お体にきをつけてがんばってください。

連絡先は下記のとおりです。

〒010-8502

秋田県秋田市手形学園町1-1

秋田大学工学資源学部電気電子工学科

電気エネルギー工学講座 吉村研究室

水戸部 一孝

E-mail kazu@kc6.ee.akita-u.ac.jp

HP <http://kc6.ee.akita-u.ac.jp/>

吉村研新聞委員会

顧問 水戸部 一孝

編集委員長 工藤 健 (M2)

副編集委員長 佐藤 保 (M2), 児玉 朋彦 (M1)

中川 史子 (M1)

編集委員 中嶋 慎論 (E4), 後藤 真吾 (E4)

新屋 剛史 (E4)

協力 青木 健太郎 (M1)